

皆野長瀨ロータリークラブ

週報

- ◇例会日 第1・第3木曜日 12:30~13:30 第2・第4木曜日 18:30~19:30
- ◇例会場 長瀨レクリエーションホテル 養浩亭
- ◇事務所 〒369-1305 秩父郡長瀨町長瀨1446 養浩亭内
Tel:0494-66-4134 / Fax:0494-66-4134
e-mail:minanaga@chichibu.ne.jp
- ◇点 鐘 山田 利明会長
- ◇ソング 奉仕の理想



世界への
プレゼントになろう

Be a gift to the world

第1337回例会 平成27年10月11日(日)

龍勢祭り例会

吉田龍勢の起源と由来

棕神社縁起「棕五所大明神由来」(1725)によると、「日本武尊」が奉持した銚より発した光のさまを尊び、後世氏子民が光を飛ばす行事として、往古より神社前方の吉田河原で大火を焚き、その燃えさしを力の限り投げて、その光でご神意をなぐさめ奉った。火薬が発明されるや、これを用いて火花を飛ばし現在の龍勢のもととなった。夜間見るときは星のごとく、よって流星と書き、昼間見るときは雲中に龍の翔るのごとく、よって龍勢とも書く。

現在の龍勢は松材を真二つに割って中をくり抜きこれに竹の籬をかけて火薬筒とする。この筒に硝石、炭、硫黄を原料にして黒色火薬を作り、きめ棒をかけやで打って詰め、最後に筒の底に錐で穴をもみ噴射口を開け、背負い物(しょいもの)と共に矢柄(長い竹竿)に組み付けて完成する。背負い物には、唐傘、のろせ、煙火、吊し傘などがあり、上り詰めた龍勢から放たれてひらひらと落ちながら秋空をいろどる。これらの製法は各集落に近年まで伝わり、現在では火薬製造の資格を得た27の流派がこれを受け継いでいる。



